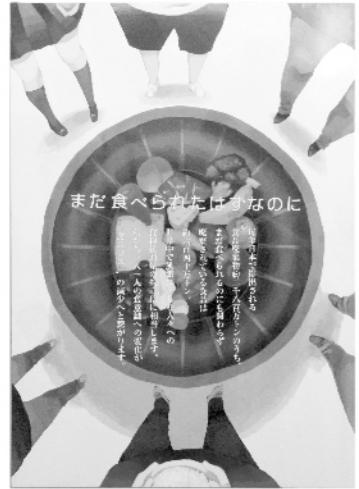


絵画部門
1年 寺谷湖子
2年 平山 優
2年 山下森人

特賞
特賞
特賞



演劇部

■岩手県南地区高等学校演劇合同発表会岩手県高等学校演劇発表会県南地区予選
『椿と海』 優秀賞 県大会に推薦
創作脚本賞 東北大会出場
演技賞 (中嶋元気役 咲山椿役)



囲碁将棋部

■岩手県高等学校セミナーサポート事業岩手県高校生囲碁講習会 兼 高校級別囲碁大会
Eクラス出場 佐藤幹太
Fクラス出場 岡崎海斗 小花優太郎

■第31回全国高等学校将棋竜王戦岩手県予選 兼 第17回岩手県高等学校文化連盟将棋竜王戦 兼 第28回岩手県高等学校級別将棋大会兼講習会(セミナーサポート)
個人戦
A級出場 安田 海 大森聖也
B級出場 佐々木義仁

A級出場 安田 海 大森聖也
B級出場 佐々木義仁

C級出場 佐々木和人 岡崎海斗
佐藤幹太 小花優太郎
佐藤颯泰

俳句部門 山下森人
戯曲部門 菅野美月
入選

その他

■第27回岩手県高等学校文化連盟囲碁新人大会
個人戦 (段級認定戦) 出場
佐藤幹太 岡崎海斗 小花優太郎
団体戦
B級出場 大船渡B
(佐藤幹 岡崎 小花)

第37回岩手県高文連将棋新人大会

個人戦
A級出場 安田 海 大森聖也
B級出場 佐々木義仁 岡崎海斗
C級出場 小花優太郎 佐々木和人
佐藤幹太 佐藤颯泰
団体戦
A級出場 大船渡A
(大森 安田 佐々木義) 第8位
B級出場 大船渡B1
(佐藤颯 佐々木和)
大船渡B2
(岡崎 小花 佐藤幹)

定 時 制

卓 球 部

■岩手県高等学校定時制通信制秋季大会

【男子】
3年 今野翔太郎 2回戦敗退
2年 上野滉太 2回戦敗退
1年 村上啓斗 1回戦敗退

バドミントン部

■全国高等学校定時制通信制体育大会

第20回バドミントン大会

【男子】
団体1回戦
岩手 (佐藤出場) 1-② 富山
個人2回戦 佐藤 颯 ②-0 千葉
3回戦 佐藤 颯 0-② 福井

■第10回定時制・通信制バドミントン新人大会

【男子】 2年 角田英哲 2回戦敗退
【女子】 2年 佐藤夏花 1回戦敗退

陸 上 競 技 部

■全国高等学校定時制通信制体育大会

第53回陸上競技大会
4年 長野力也 1500m
4分57秒27 6位 予選敗退
2年 上野滉太 800m
2分24秒53 5位 予選敗退
1年 塩口夢姫 100m
14秒79 3位 **準決勝進出**
準決勝
15秒05 8位 準決勝敗退



JRC同好会

■高文連国際理解専門部JRC委員会高校生大会

2年生 4名参加
発表①全国研修報告 新田 佑
②活動報告 鈴木 蒼
五安城雄亮 佐藤海斗

■高文連国際専門部JRC委員会活動発表会

1年生 6名参加
発表①1円玉募金活動
②古切手・未使用葉書の回収活動及び国際理解活動
近藤陽介 滝田桃花 山口尚美
川原友希 佐藤 快 須賀友香

文芸同好会

■第41回岩手県高等学校総合文化祭芸能部門

隨筆部門 山下森人 入選

岩手県立大船渡高等学校

〈第43号〉平成31年2月28日



題字：56回生（平成18年度卒業）菊地 太紀



創立70周年記念事業 西村元希さんピアノコンサートの様子

❖ 目 次 ❖

聞くことは、知ること そこから学ぶこと	会長 山口 康文 2
大船渡高校われら♪	校長 高橋 正紀 2
平成30年度 同窓会総会 (盛岡支部・仙台支部・関東支部)	3
創立70周年記念事業に向けて (経過報告と今後の計画)	4
同窓生だより	『出逢い』吉田頼暢 5
『2011.インターハイ出場から得たもの』東美空 5	
平成30年度 部活動戦績 (全日制・定時制) 後半	6・7・8

聞くことは、知ること
そこから学ぶこと

同窓会長 山口 康文



大船渡高校 われら♪

校長 高橋 正紀



1964年開催の東京オリンピックは、日本の成長を世界に広めた「ビッグな祭典」であった。オリンピックのお陰でさらに成長した日本は、「テレビ・洗濯機・掃除機そしてマイカー時代」へと進んだ。東北岩手も同じこと、伸びるチャンスとなり、雇用は増え、私たちの生活を安定へと導いた。

中学時代、この祭典を楽しんだ私たち世代は、学び舎(中学・高校)から、社会に旅立って50年が過ぎた。職業選択も幅が広くなり、多業種の中から自分が望む道を選ぶ。私は、縁があり、「環境と公害」の分野に進むこととなった。公害は、明治期から粉塵などが問題となり、大正・昭和と高度経済成長による工業化、都市化が進み、大気汚染・水質汚染、自然破壊が時代と共に深刻になった。

人が生きることにより、公害が発生、経済の成長と共に環境が汚染される。この対策、改善のために「公害をおこさない、環境を汚さない事がいちばん。」と新しく環境設備の企業が育った。昭和から平成の時代は、これら環境・公害に対応する企業が時代を牽引している。

母校を卒業して6年間、東京で学び、職に就き、先輩や経験豊富な創業者の方々から「聞き、学び、知り得た知識」は、数多い。時代は、変わっていく。自分がどの様に変化するか、どの方向へ決めていくかだ。先輩からは、恥ずかしがらずに聞くこと。それが一番だと教わった。そして、経済に興味を持ち、日経新聞を読み、経済、政治、社会、文化にも目を向けることだと在京時代、23才の頃に鍛えられ、「ふるさとで起業するぞ。」と自分を奮起させたのもこの頃であった。

チャールズ・ダーウィン(イギリス・自然科学)の「生き残る種とは、最も強いものでない。最も知的なものでもない。変化に最もよく適応するものである。」は、忘れてはならない私の基本だ。

「時代の変化をはやく理解して、先をみること、そして、自分を進化させることだ。」と教えてくれた先輩には、今も感謝している。

同窓生の皆様には、日頃より様々な形でご支援をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。お陰様で、ひたむきに励む生徒と意欲あふれる教職員に囲まれ、将来を担う若者の育成に鋭意専心取り組むことができます。これもひとえに、この70年間、数えて22代にわたる校長先生方のご高見と諸先生方のご尽力、同窓生の皆様や地域の皆様からのご理解とご支援の賜だと思っております。改めて、心から敬意と感謝の意を表します。

さて、一昨年、高総体総合開会式の存廃問題がマスコミで取りざたされ、その後、検討が続けられていたわけですが、今年度中には在り方の方向性が示されることとなっています。高総体総合開会式といえば各校の応援合戦という印象がありますので、存続か否かは今後の高校の応援団活動の在り方にも影響するのかもしれません。

応援について思い出すのは、前任校では応援リーダーの合宿研修を行っていましたが、その講師として招いた大学応援部のリーダーの言葉です。応援リーダーの役割は何かという私の問いには、「観客の気持ちを一つにまとめて、一体となった応援にすること。」という明快な答えが返ってきました。また、体力的に苦しくなっても、どうして笑顔で応援できるのかと問うと、「プレーをする選手の方が何倍も苦しいはずだ。それなのに、応援する我々が苦しい顔をするわけにはいかない。」と事も無げに答えたのでした。大学応援部リーダーの心意気に触れ、嬉しく思いました。

昨年の夏、秋と多くの方に野球場へ足を運んでいただきました。結果はもう一步というところでしたが、今春、そして夏には、何度も何度も肩組み合って校歌を齊唱し、在校生にとっては大高への帰属意識を、同窓生の皆さんにあっては母校への思いを確かめ合う機会が増えることを切に願っています。「大船渡 大船渡高校われら♪」

平成30年度 同窓会総会開催

今年度も各支部において総会が開催されました。盛岡支部総会後に行われた講演会では、(株)バンザイファクトリー代表取締役の高橋和良氏を講師に招き、「大船渡市の復興特区に新たな生産拠点が始動した。」を標題に講演をいただき、これからの大船渡市復興のために必要なものは何かを参加者全員で考えることができました。素晴らしい講演であり、在校生にも聞かせたい内容でした。今後も同窓生が団結し、本部、各支部の活動を活性化させましょう。



盛岡支部総会の様子



盛岡支部総会講演会の様子



盛岡支部総会の様子



仙台支部総会の様子



仙台支部総会の様子



関東支部総会の様子



関東支部総会の様子

■関東支部より

平成30年10月13日(土)同窓生が経営するレストラン・オックス(日暮里)で開催し、昨年同様50名以上の参加となりました。総会では同窓会長 山口康文様、副会長 熊谷勲様、校長 高橋正紀様、事務局次長 志田敬様の出席のもと、会計報告や活動計画、予算案が承認されました。

懇親会では、高校の様子、生徒の活躍などの情報提供があり出席者は大変喜んでおりました。また、出席者全員のスピーチでは高校時代の様子や近況報告などがあり、楽しく賑やかなものとなりました。

関東支部は、常日頃から同窓生のネットワークを強化しようと努めしております。最近、幸いにも思わぬところからの横の繋がりを生み、役員を買って出る方もあり今後が楽しみです。次年度は、2019年10月10日(土)に開催予定です。

事務局より

平成30年度 同窓会事業経過報告

期日	活動名	場所	備考
4月6日(金)	入学式	大船渡高校第1体育館	全日制162名、定時制4名が入学。山口会長と4名の副会長が出席。
4月10日(火)	会計監査	大船渡高校応接室	
5月7日(月)	第1回三役会	大船渡高校応接室	総会に向けて。
6月5日(火)	第1回常任理事会	大船渡高校大会議室	事業報告、会計報告、事業計画、予算案について。
6月19日(火)	同窓会総会	大船渡プラザホテル	参加者38名。
7月2日(月)	創立70周年記念事業準備委員会解散総会 兼実行委員会設立総会	大船渡高校大会議室	事業報告、会計報告、準備委員会解散について、実行委員会規約、役員、事業、予算の提案と承認。
7月23日(月)	同窓会報(第42号)発行		
9月8日(土)	仙台支部総会	シェルブル	参加者27名。本部からは、熊谷勲副会長、高橋校長、熊谷事務長が出席。
9月14日(金)	創立70周年記念プレ事業西村元希ピアノコンサート	大船渡高校第1体育館	役員8名、保護者7名、一般3名、生徒501名、学校職員40名が鑑賞。
9月25日(水)	創立70周年記念事業実行委員会第二回総会	大船渡高校大会議室	経過報告、記念事業スケジュールについて、各種委員会。
10月13日(土)	関東支部総会	レストラン・オックス	参加者51名。本部からは、山口会長、熊谷勲副会長、高橋校長、事務局志田が出席。
11月21日(木)	創立70周年記念事業実行委員会第三回総会	大船渡高校大会議室	経過報告、記念講演会について、記念誌について、各種委員会。
11月22日(金)	盛岡支部総会	ホテルメトロポリタン盛岡	参加者32名。本部からは、山口会長、熊谷孝嘉副会長、高橋校長、事務局村上が出席。
12月12日(火)	創立70周年記念事業実行委員会第四回総会	大船渡高校大会議室	経過報告、記念講演会について、記念事業について、各種委員会。
2月19日(火)	第2回三役会	大船渡高校応接室	今年度の反省、次年度に向けて。
2月28日(木)	同窓会報(第43号)発行		
2月28日(木)	同窓会入会式	大船渡高校タラホール	
3月1日(金)	卒業式	大船渡高校第1体育館	

創立70周年記念事業関係

創立70周年記念事業として、2019年10月19日(土)リアスホールにおいて『記念式典』等を挙行する予定となっています。この他、60周年からの10年間の歩みをまとめた『記念誌』の発刊や部活動の飛躍を期した『記念講演会、記念文化発表会』の実施等に向け各種委員会を設置し、各事業の成功に向けてこれまで4回の総会が行われました。



創立70周年記念プレ事業「西村元希ピアノコンサート」の様子



西村元希さんは、大船渡高校OBで東京音大でピアノを学び、第7回ブルクハルト国際音楽コンクールピアノ部門で第1位となる。ピアニストとして音楽活動を展開している。「さんりく・大船渡ふるさと大使」も務め、多方面で大いに活躍している。

同窓生だより

出逢い

吉田 順暢

(第57回生・平成19年度卒業)



恩師からの依頼を、二つ返事で引き受けてしまったことに後悔の念を抱きながら、この原稿をまとめています。とはいえ、その恩師との出逢いがなければ、何も学ばないまま高校を卒業していたと思います。今回はその恩師とのエピソードを交えながら書かせて頂きます。

大きな夢や目標があったわけでもなく、「勉強も部活動もほどほどに頑張って、大学に進学すれば、何かやりたいことが見つかるかも。」そのような考え方で、ただ漠然と毎日を過ごしていた、それが高校入学当初の自分でした。

高校1年生の頃は、勉強もさほど真剣に取り組むわけでもなく、部活動も定まらずフラフラしていたのですが、高校2年生になり、空手道部に所属しました。そのとき、空手道部の顧問となつたのが恩師(M顧問とします)でした。空手道インターハイ常連校から赴任してきたM顧問の指導は、真面目に練習に取り組んでいなかった当時の部員達にとってはとても厳しいものでした。それに嫌気が差し、部員そろって練習から逃亡を謀ることも度々ありました。当

然、逃亡したことがばれ、部員全員が集められたことがあったのですが、想像とは裏腹に、M顧問は部員ひとりひとりと向き合い、意見を聞き、真正面からぶつかり、叱ってくれました。日頃の練習でも、顧問自らがミットを持ち練習相手となる、指導するのも、褒めるのも、怒るのも全力、部活動だけではなく、勉強面や生活面も相談に応じ、一緒にになって考えてくれる、生徒としてだけではなく、ひとりの人間として向き合い、接してくれているように感じました。そのような指導者の姿を見て、次第に練習から逃げ出す部員はいなくなり、大会でも好成績を残せるまでになりました。「信頼される人間」の姿を間近で見て感じることができたのは、高校時代の自分にとって、とても価値あることだったと思います。

卒業してから10年以上が経ちますが、試合直前に仲間が背中を押してくれる感触、恩師が掛けてくれた言葉、試合に勝ったときの喜びや負けたときの悔しさまで鮮明に覚えています。そして、部活動を続けることができたのは、切

2011. インターハイ出場から得たもの

東 美空

(第61回生・平成23年度卒業)



2011年3月11日私は部活動の最中でした。校舎の周辺を走っている時に激しい揺れに襲われ、周りの家の瓦が次々と落ちる光景は今も強く印象に残っています。その日から私達の日常は大きく変わってしまいました。何日も学校に通えず、当たり前のことが当たり前でできない生活が続きました。震災後しばらくして、部活動が再開されました。被災した後輩は道衣がなくジャージで部活動に取り組んでいました。毎年春に行われている大きな合宿や大会も中止になり、震災がきっかけで部活動の内容は例年に比べ大きく異なってしまいました。そんな満足に練習ができない中、私達は引退がかかる高総体を迎めました。前日に足を引きずる程の怪我をした部員もあり、決して満足なコンディションとは思えない中での試合でした。準決勝での釜石高校との戦いも、決勝の山田高校との戦いも、両校被災したメンバーが多い中の試合でしたが、持てる実力を発揮し全員のチームワークで勝利することができました。そしてインターハイ出場を決めることができました。

現在、私は児童養護施設で働いています。様々

琢磨し合える仲間と出逢えたからです。それほど高校時代に打ち込むことができるものがあったこと、信頼できる恩師と仲間に出了ることは誇りに思いますし、沢山のことを吸収できた期間であったと思います。

今では社会人となり、公務員として仕事をする立場になりました。技術職として専門的な業務を担当しており、ときには解決することが困難な課題にぶつかることがあります、高校時代に学んだ『物事を真摯に受け止め、何事にも誠実に取り組む』という精神をこれからも忘れず、仕事にも活かせるよう心掛けたいです。そして何より、これからも人の『出逢い』を大切にしていきたいです。



高校時代の活動の様子
第29回東北高等学校空手道選手権大会
平成19年6月 山形県総合運動公園体育館

舞台に立てた事は私の誇りです。しかし、それ以上にインターハイの舞台と一緒に立った仲間ができた事が私にとってとても大きな財産になったことは間違ひありません。高総体からインターハイまでの厳しい練習等の様々な思い出、またあの舞台の緊張感などを共有した仲間はあの人たちしかいません。あれから8年が経ち、どのメンバーも違う道、違う場所で生活していますが、たまに会って旅行に行ったりお酒を飲んだりしています。繰り返しになりますが、あの環境の中で部活動を続けられた事、インターハイに出場できたこと、そしてかけがえのない一生モノの仲間と絆を深められたことは様々な方の支援やサポートがあったからだと思います。家族をはじめ顧問の先生や指導に来てくださいました。たくさんの方に応援していただいたことで、震災後も部活動を行う環境を持つことができたのだと思っています。最後に創立70周年を迎える大高の活躍を東京の地から応援しています。



高校時代の活動の様子
2011熱戦再来・北東北インターハイ
平成23年8月 青森県十和田市総合体育センター

